

が地域によってどのように相違するかみようとするもので場所は工場街を背景にしている川崎の「さいかや」デパートを選んだ。観察の対象となったケースは六〇ケースその内訳は幼稚園以下と思われるもの一八幼稚園々児と思われるもの三六、小学校児童と思われるもの六でいずれも母親または父親または家人が同伴している。結果の整理は次の点に關しておこなった。第一は所有化の型、第二は親子関係と禁止の数、第三は禁止の理由、第四は親子関係と玩具要求数、第五は年令との関係、第六は同伴者との関係、第七は満足状態についてである。これは前回と全く同じ方法である。結果について前回研究のものと比較考察すると、第一の所有化の型では工場街の方が山の手より親中心に傾くといえる。次に親子関係と禁止の数であるが子ども中心の場合は両地域とも禁止のあるものないものほぼ同数であるが親中心の場合において工場街では禁止のあるものがずっと多くなっている。次に禁止の理由については山の手と同じように内的理由が多くみられる。次に親子関係と玩具要求数については玩具要求数が山の手では子ども中心の方が親中心よりも多くなっていたが、工場街ではほとんど差がみられない。次は年令との関係についてみると小学校では両地域とも子ども中心が多く、幼稚園以下では親中心になっている。しかし幼稚園の場合は工場街ではかなり親中心に傾いている。次の同伴者との関係では父親同伴の場合に山の手と同じく子ども中心が多くみられるが山の手に比べてやや親中心の傾向がみられる。父母同伴の場合には工場街で子ども中心は一名もみられなかった。次の満足状態については工場街の方が山の手に比べて子どもが玩具を手にした時の子どもの表現からそれを捉えにくいということが言えるように思われる。

日本昔話を通じてみた

幼少年期の道徳観

——第一報 報復についての考察——

呉・銀の鈴保育園 畑 都代子

同 右 坂田美美子

呉・大洋幼稚園 大野 煦

広島女子短期大学 山内美子

研究目的 戦前の因果応報性のある日本昔話から、戦後の同情性を含んだ昔話に改訂されているが、外来の昔話は戦後もほとんど改訂されていない。精神衛生上よりみた童話の在り方はいかなるタイプのものを与えたらよいか。一報では報復について検討したい。

研究対象 島嶼部、農家の比較的多い広島市内の小学校二校。呉市内の東西南北、中央の五保育所を選んだ。年令は五〜八才である。

研究方法 舌切り雀、かちかち山の戦前、戦後の話をして聞かせ、学童は調査カードへ〇印をつけさせ、幼児は別室で個人面接した。研究成績並に考察 年令別にみると舌切り雀の婆、かちかち山の狸は「殺されてもよい」という肯定型は幼児(学童)である。性別にみると幼児間は男へ女と有意の差が認められる。この応答者は男女を

間わず内向的性情児や、家庭教育に熱心と思われる家庭の子女である。否定型は女より男で、外向型の者が多いようである。条件付肯定型は学童より幼児となるが、性差は両児とも認め難い。婆と狸とではいずれが多く殺されてもよいかをみると学童女は婆より狸で有意の差が認められる。これは Oedipus complex ではないだろうか。昔話は原型に近いものを幼少年者には是非与えたいと思う。それは①原始人の Symbolism と幼児の Animism と共通していると思われる。②原始人と幼児の Typism は共通しているようである。③因果関係的に究明しようとしなない点は類似しているようである。④原始人の同罪刑と幼児の因果応報性とは共通しているようである。以上の点より、幼少年児は理解され易いと思われる。幼少年者の Needs を躰の名のもとに抑圧することは憎悪を高めるように思われる。無意識面にほとんどの幼少年者もっている残忍性、攻撃性、征服欲を正しく理解して昔話の世界で発散させたいと思う。

絵画製作における 素材と表現について

財団法人幼児研究所

荒井澄子

調査にあたって

近頃絵画製作につかわれる素材は非常に多くなってきた。しかしそれらが子どもたちにどのように扱われているだろうか。ここに

いて最も基礎的と思われる描画、構成素材について技術性・表現・興味などについて私たちの園児の作品を通して調査してみた。
結果の考察

描画素材（パス・えのぐ・鉛筆）

表Ⅰに示されている通り技術的な困難度はパスでは発達段階に即した数が出ているが、えのぐについては二年保育で困難度が少なくなっている。鉛筆においてはあまり差がみられない。このことは一年保育では形あるものを描こうとするのでえのぐで描くことをあまり好まず、パスで表現することを喜んでいる。二年保育ではなんでも良いから描こうとするので、その点一年保育と逆になっている。三年保育では筆が自由につかいきれないのでパス鉛筆を好んでいる。

指導上の留意点

三年保育は線がきで自己を表現しようとする傾向が強いのでパスを中心につかわせ、これにえのぐをつけ加えてパスの性質を知らせていったらよいと思う。二年保育はえのぐを中心に活動させることが出来ると思う。一年保育はえのぐを使わせる場合の方法として実験的、興味的な扱いを工夫してやればおもしろく出来るのではないだろうか。

構成素材（画用紙・中厚紙・粘土・木工・ポアスタイン）

画用紙（輪の構成、中厚紙（三角組立て）で空間構成、粘土、木工、ポアスタインで立体構成を試みた。その結果は表Ⅱに示された通りである。

指導上の留意点

素材を私たちの頭のみで予想して与えたり与えなかつたりするよ